KDS NEWS 300号発刊を祝して

㈱淀川工技社　楠 本　雅 一
（平成19年～平成22年、平成27年～平成30年　副理事長）

KDS NEWS 300号発刊、まことにおめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

300号を重ねるには並大抵の苦労ではなかったかと拝察いたします。広報事業担当理事の皆様や事務局に心から敬意を表します。協同組合の力と心を結集しなければ300号を重ねることはできません。またここ数年、より美しく、より読みやすく、より面白い紙面づくりをしてくださっている鶴井理事（広報担当編集長）、関理事（広報写真担当）、小野事務局長、ならびに協力を惜しまない現理事の皆様方の御尽力を想うものであります。一人の組合員として深く御礼を申し上げます。

このたび、私と広報誌について寄稿するようにと御下命をいただきました。とは言っても、長く組合に関わりながら広報事業においては「（本稿のような）寄稿依頼への対応」以外に苦労した記憶は全くありません。実は、桑田靭比古第7代理事長が組合広報誌である「複写ニュース」に多くの時間を割いてくださっていたからです。私がそのあとを継いで理事長になった時も広報担当として小野事務局長と一緒に「複写ニュース」の定期発行に御尽力くださいました。二人のお力添えがあってはじめて広報誌は継続され、それが「KDS NEWS」へと発展し300号を迎えました。「継続は力なり」を具現化してくださいました。しかし事業がないと広報はできません。

私事で恐縮ですが、当時の組合の次世代事業である「ジュニア会（1981年6月）」に参加していつの間にか40年が経過しました。その間、多くの事業に参加してきました。それらはすでに旅立たれた多くの先輩方の軌跡上にあります。また、私が理事長を務めることができたのは三役、理事各位、事務局の御助力はもとより、当時の福味副理事長（現福味副理事長の御父上）と桑田副理事長が支えてくださったからです。両先輩は私の組合事業推進の心強い兄貴分であり相棒でした。諸先輩方の御尽力のおかげで事業があり300号の積み重ねとなりました。広報誌300号の重なりは先人に支えられた事業があったからです。この記念すべき時、事業を推進してこられた諸先輩を想わずにいられません。諸先輩の事をもっと書きたいのですが、書き出せばきりがないので別の機会に譲ります。

300号を重ねたいま、次のステージのためにその意義をあらためて皆で考えたい。それは組合価値の確認と同義です。

「複写ニュース」は「KDS　NEWS」へとお洒落に進化しました。毎号、編集長と事務局長の趣向を凝らした紙面が組合員様や賛助会員様に送られます。しかし、広報事業は単に事実を組合員様と共有するだけのツールではないように思います。広報誌の役割、すなわち組合の役割、それは大海を進む船に喩えることができるのではないでしょうか。歴史、いま、未来をつなぐ船です。荒波の業界環境という大海に仲間を乗せる船です。混沌としたデジタルカオスの渦中にあっては次世代を未来に誘う船です。広報誌を通じて、組合事業を通じて、次世代に仲間達を案内する乗り物です。

「KDS NEWS」、基本的にはわずか4ページの紙面です。しかしその使命は私たちにとっては一般紙に比しても大きなものです。「KDS NEWS」の継続は近畿ドキュメントサービス協同組合の価値存在を意味します。今から400号が楽しみで仕方ありません。

The Value of　“KDS NEWS”

「歴史」の上に「いま」を語り、
「いま」のその先の「未来」へと誘う

近畿ドキュメントサービス協同組合 諸先輩方より

お祝いのお言葉をいただきました

創刊300号 おめでとうございます

㈱藤島工業所　藤 島　暎 一
（平成1年～平成16年　副理事長）

平素は、ご無沙汰ばかりで申し訳ございません。

この度は「KDS　NEWS」300号記念号発行、心からお祝い申し上げます。以前、昭和52年度から平成24年度まで、32年間「複写産業協同組合」「近畿電子複写工業協同組合」役員・理事長・相談役…と、役員、組合員の皆様方のご協力で、微力ながら勤めさせて頂きました。

業界の業態、移り変わりが早く、思い起こせば、「日本列島　総不況」と言われる中、仕事量の減少、同業他社等による価格破壊、異業種からの参入等、協同加工収入が大幅に減少し、これからの「組合事業の在り方を考えた時、役割が終わった」と言う観点から、苦渋の決断、解散決議をしました。

ある意味では楽しかった事ばかりで、「電子組合」の解散時が一番苦しい時代でした。

一方、複写工業組合の活動の中「海外旅行研修会」が開催され、私も参加しました。「躍進企業の秘訣を探る」「ニューヨーク ～ トロント ～ ロスアンゼルス」と廻り各社を視察しました。流通業・小売業を中心にCS実践企業見学、コスト競争を超えて改めて「真に、お客様が何を必要とされるのかを追求し続ける企業ポリシー」が重要であり、成長のキーワードである事を再確認いたしました。

その他、複写組合では、各種研修会・福利厚生…のお手伝いをさせて頂き、組合員の皆様と仲間意識が強くなりました。私が、役員在職中、色々と勉強をさせて頂き、本当に有難う御座いました。改めて有難く感謝申し上げます。

今後共に、河村理事長様、始め役員の皆様方は大変だと思いますが、団結して組合運営にご協力して頂きますよう宜しくお願いをして、ご挨拶に代えさせて頂きます。

組合での思い出

㈱創和情報管理センター　佐 田　三 郎
（平成1年～平成8年　専務理事）
（平成17年～平成18年　副理事長）

私が組合にお世話になった時からのお話は昔々その昔のお話です。一昔は十年です。お話は三十年前の事になります。

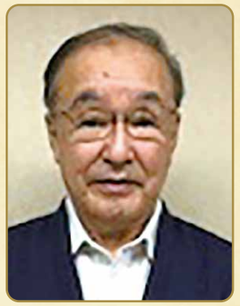
当初私は、青写真業を営んでおりました。青写真とは、青地に線が白い図面を作成することです。詳しくは、透明紙（トレーシングペーパー）に印字された図面等を水銀灯により感光紙へ転字し、水洗いし、それを重クローム酸液で現像する。またそれを水洗いし、乾燥させて、原寸紙（88㎝×100m）に切って完成させたもので、大変作業工程の多いものでした。その為、近畿の組合では、感光紙の共同購入をはじめ、二ツ折製本表紙のダイヤボード、A4折製本用黄ボールマクラ等を販売していました。

その頃の楽しい思い出で筆頭に浮かぶのは、近鉄あやめ池駅前運動場で、近畿の業者地区対抗リレー等を一日楽しんだことです。また、永年勤続優良社員表彰を難波新歌舞伎座や文楽座等で行い組合員の励みとなりました。その他、PPCコピーの大量の受注が多くなり、電子複写工業協同組合を設立させました。組合員の対応に答え、大型コピー、カラーコピーの受注増の為、組合員が利用できる小型高速機、大型、小型カラーコピー機を設置し活用しました。

電子複写工業協同組合は、時代の流れと共に解散し、複写産業協同組合が主流になりました。（全国複写産業協同組合連合会発足）その後、長年マイクロフイルムに保存されて来たフイルムから光ディスクへ変換させ、フロッピーディスクにまた変換し卓上パソコンで見ることが出来、プリントも即座に仕上げる事が出来るようになりました。現在は、近畿ドキュメントサービス協同組合になり電子複写デジタルデータ等に対応しています。

最後に忘れられないのは、組合の上部団体の全国複写産業協同組合連合会が行う、北は北海道、南は沖縄各地の記念式典に出席した時の事です。東京で行われた新年互礼会で、「今日は、大阪から吉本興業の方が参加しておられます。」と中締めの時紹介され、「大阪からの佐田さんよろしく」と言われ、私は困り、「今日は新幹線で来ました。東京が近づくにつれ、富士山の裾野を窓一杯に見て、富士山の雄大さ、頂上に頂く冠雪の素晴らしさに感動しました。東京の方々は、この姿を日々見て、思いをはせておられること、私達はあこがれの場所です。各地の組合の皆様のご活躍の素晴らしさを感じ、これからの益々の発展を念じております。」と挨拶したのがよい思い出となりました。

「KDS NEWS 300号」によせて



㈱阪神青写真工業所　桑 田　靱比古
（平成11年～平成14年　専務理事）
（平成23年～平成26年　副理事長）

「KDS NEWS 300号」発行おめでとうございます !!

「NO.300」実に永きに渡り続いてきました。こうなると興味を引くのは、「NO.1」です。そこで拙い知識と手元の資料で探って参りたいと思います。

そもそも広報誌というものは、組織あっての物種で、且つその中で成長していくものと思っています。従ってその組織＝協同組合の移り変わりから入ってまいります。

先ずは、現在の「近畿ドキュメントサービス協同組合」の大元である「近畿工業写真協同組合」が1963年5月（昭和38年）に設立されました。そして1985年上部団体である「全日本青写真工業連合会」の法人化と共に名称を「日本複写産業協同組合」としたことにより、その傘下組合の名称の統一を図ることになり「近畿複写産業協同組合」が誕生しました。

これまでの間に、複写産業もアンモニアによる単一の複写作業から、時代の流れとともに、トレシングペーパーや普通紙への電子複写、マイクロフィルムでの図面管理等、事業内容も多岐にわたるにつれ、設備の大型化や導入によるコストアップ等で、作業を一括で行う為の「共同作業場」の必要が起こってきました。そこで共同出資の会員を募り、1967年10月に設立されたのが「近畿電子複写工業協同組合」であります。

この頃になりますと、我が国も高度成長期に入り、国の発展と共に我業界も活況を呈し、近畿二組合の活動等を報告する広報誌の発行が必要となって参りました。

そこでいよいよ「NO.1」の登場です。それは1975年に「SEIYU(青友)NO.1」という名称で年1回の形で発刊されました。年1回の発行だけに100ページ強の雑誌の体裁で見映えのするものでした。

やがて1990年代に入り、「バブル崩壊」という現象のもとに日本経済の下降局面が見られると、我業界もそれに引きつられ、「阪神淡路大震災」の一時的な復興事業によっての回復が見られたものの、図面のCAD化並びにデータでの管理、加えてネットワーク伝送の利用が旺盛になるにつれ、従来の複写業務が減少し、とうとう1999年10月に「近畿電子複写工業協同組合」は解散となり、それによって「SEIYU（青友）」も「NO.25」で幕を閉じました。

その後、「SEIYU（青友）」の年1回の発行では、即事性がないという反省から（5～6回／年＆数ページ／回）という形で、「複写工業ニュース」から「複写ニュース」へと移って参りました。そして平成29年7月「近畿ドキュメントサービス協同組合」への名称変更と共に「KDS NEWS」が誕生しました。

いつの時代でもこの「広報誌」は、我等協同組合と共に歩むものであり、必要不可欠のものと信じてやみません。

鶴井さんを筆頭にスタッフの皆々様、これからも末永く大いに頑張って「筆」を奮って下さい !!